Let's go to SORAMPO Vol.120

そらんぽへ行こう

問 四日市公害と環境未来館（TEL 354-8065 FAX 329-5792）

四日市市環境フェアを開催します



昨年の「四日市市環境フェア」

四日市公害と環境未来館は、12月12日(土)に文化会館展示棟で、「四日市市環境フェア」を開催します。

このイベントでは、環境活動団体などによる展示やワークショップなどを通して、公害や環境について考え、学ぶことができます。

展示ブースでは川の生き物の展示や、環境を守る活動についての展示を見ることができます。

工作体験ブースでは、竹でミニ門松を作る工作や、ウミガメの陶器に色鉛筆で絵付けをする体験を通じて、市内の竹林の現状やウミガメを守る取り組みを知ることができます。

また、三泗地区内の小・中学生の「公害・環境に関する研究作品展」の表彰式と研究発表会なども開催します。

本市の環境の取り組みについて楽しく学び、身の回りの環境問題などを改めて考えるきっかけにしてはいかがでしょうか。

四日市公害と環境未来館ホームページ

BUNKAZAI SANPO Vol.53

文化財さんぽ

問 文化課（TEL 354-8238 FAX 354-4873）

復活の伊勢大神楽（だいかぐら）



大神楽が奉納された海蔵神社

「伊勢大神楽」は国が重要無形民俗文化財に指定する伝統芸能です。桑名市太夫（たゆう）町に本拠地を置く伊勢大神楽講社が保護団体になっていますが、阿倉川にも独自の系統が伝わっています。

阿倉川では、室町時代に山伏（修行者）が神宮御師（おんし）の手代（てだい）となって檀家回りをしたのが始まりといわれ、最盛期には12組の家元がありました。

大神楽は「代神楽」ともいい、かつて伊勢神宮への参宮が容易ではなかった時代に、家元達が獅子舞や放下（ほうか）芸を披露しながら各地を巡り、伊勢神宮のお札を配ったことに由来します。

ところが明治になると御師制度が廃止され、大神楽は神宮と公的な関係を失います。太夫町では、現在でも伊勢大神楽講社として４組が活動する一方、阿倉川では家元の廃業が続き、戦後まで残っていた１組も講社に合流することになりました。

こうして阿倉川での大神楽の奉納は途絶えてしまいましたが、令和２年３月、海蔵神社で60年ぶりに大神楽が奉納されました。本市の大神楽のゆかりの地を訪れてみませんか。